

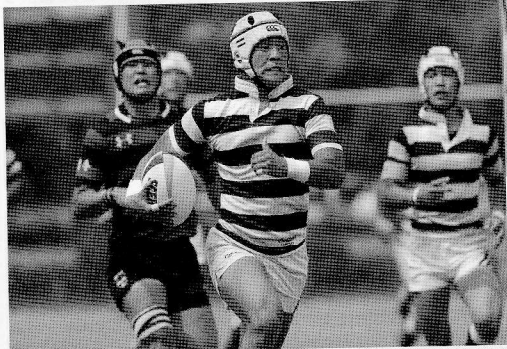
東北 第67回 高校大会

▶6月16、17、19日
▶男鹿総合運動公園球技場

取材と写真◎福島宏治



FWがユニットプレーでの差を見せて、前に出た



優勝候補の一角だった秋田工。3決で得点力を見つけた

▶I部決勝▶6月19日▶男鹿総合運動公園

仙台育英 31 [10-0 / 21-0] 0 青森北
(宮城1位) [4T4G1PG] (青森1位)

自律のきっかけに。

仙台育英が3連覇。完封で決める。



3連覇を喜ぶ選手たち

▶I部3決▶6月19日▶男鹿総合運動公園

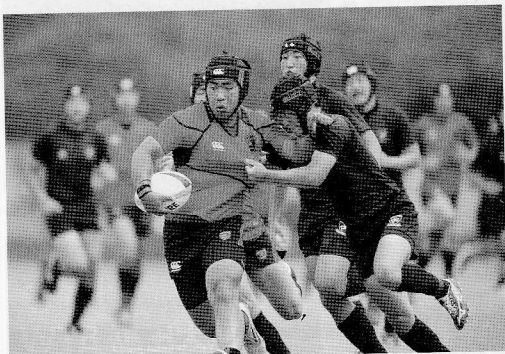
秋田工 59 [21-0 / 38-7] 7 黒沢尻北
(秋田1位) [9T7G] (岩手1位)



秋に上昇が見込まれる両校。後半23分にPGで盛岡工が勝利

▶II部決勝▶6月19日▶男鹿総合運動公園

盛岡工 29 [12-14 / 17-12] 26 秋田中央
(岩手3位) [4T3G1PG] (秋田3位)



FWが起点となり、前半に勝負を決めた黒沢尻工

▶II部3決▶6月19日▶男鹿総合運動公園

黒沢尻工 48 [43-5 / 5-0] 5 郡山北工
(岩手2位) [7T5G1PG] (福島2位)

FW戦で先手を奪いたい両校。前半は敵陣に持ち込んだチームがミスをして流れがつかめない。得点がなかなか動かなかったが、26分に仙台育英が伝統のモールで20歳を押し切り、待望の先取点をつかむ。

「前半は相手にうまく対応できなかった。選手たちも自分たちでリズムを変えなきゃいけないと言いつつ、そこは前半最後に上手くいった点でしょう」と仙台育英の丹野博太監督が振り返るように、終了間際にも敵陣で反則を得て、PGを選択した。

前半の残り5分でペースをつかんだ仙台育英は、後半は本来のリズムで攻撃する。3分にはゴール前のラックからH.O阿部幹汰、14分にはFL二葉暖がインゴールに飛び込むと、19分にはスピードに優れるSH村上陽平が中央を突破してトライ。テンポよくボールを動かすとFWも

生き生きと攻撃するのが仙台育英本来のペース。それが守備にも活きて、完封で東北を制した。

「自分たちで考えて最後はまとまれた点は収穫ですが、まだ攻撃選択に課題は残る。仕留める所の見極めができないと全国では勝ち進めない」と丹野監督。普段から「自律」を考えさせてきたが、苦しんで打開した経験はこれからのきっかけになる。

敗れた青森北は準決勝で優勝候補の一角だった秋田工を破るなど収穫も多かった。

長谷川均監督によれば、「前半はこという時に反則でリズムに乗れなかった。でも、経験の少ない選手たちなので、伸びしろはあります。これから楽しみです」

高校で始める選手が大半を占める青森北だけに、春の段階で大きな可能性を示した。何よりもファイトでできる選手が多いのは楽しみな要素だ。